

#### Ⅳ. 教育リソースの教育実践研究での利用

##### Ⅳ-3-4. 教頭だより

宮城卓司先生は、手引きをさらに説明を加えて全員に提供された。

##### 【教頭だよりの構成例】

教頭だよりに説明とQRコードを付け、これを用いて先生方はパソコン(またはスマートフォン)で授業の映像を見ることができます。これを教育委員会、教育センター等で作成し、通信ネットワークを用いて提供するののも一つの方法です。

※ プライバシー(顔を記録しないように注意)

№643  
2015年2月20日  
宮城 卓司

## 教頭だより

＝＝＝＝☆ センター研究発表会② ☆＝＝＝＝

前回の秋田大学、阿部先生の講演の続きです。  
以前の学力調査で全国の40位に落ちた秋田県が、今回の調査の殆どの教科でずっと位を争っている理由として、次の点をあげていました。

※ ( ) 内は全国学力学習状況調査での全国平均と秋田県の差

- 1 熱心に授業に向かう子ども
- 2 結合い、意見交換を重視した「探究型」「課題解決型」学習  
・授業で友だちと話し合う活動 (+12.9%)  
・児童・生徒の発言や活動の時間を確保 (+15.5%)  
・授業で自分の意見を発表する機会 (+9.2%)
- 3 授業の冒頭に「めあて」、最後に「振り返り」
- 4 家庭での学習習慣の定着  
・家で学校の復習 (+36.7%)  
・自分で計画を立てて勉強 (+19.6%)  
・家庭での学習方法を児童・生徒に指導 (+29.3%)
- 5 学校-家庭-地域のつながり・連携  
・保護者に対し、家庭学習を促す働きかけ (+14.0%)  
・全国学力の結果を家庭・地域に公表・説明 (+15.2%)  
・地域の行事に参加 (+13.5%)
- 6 質の高い授業研究システム (チームで取り組み協働で研究する)  
・教育目標達成の方策を教職員で共有し取り組む (+10.4%)  
・学校全体の学力傾向や課題を全職員で共有 (+10.4%)  
・家庭学習の考え方を全職員で共通理解 (+24.0%)

この中で特に6に関しては、探究型の授業でも「時間が足りない」ということがない理由だと詳しく説明されました。ご存じのように、秋田県は教員同士での授業研究が盛んな地域です。こうして見ると、今自分達の学校に何が足りないのか、次年度はどういった活動を行えばいいのが見えてくるような気がします。少なくとも家庭学習の方法の共通理解や普段からの授業研究を効果的に行う必要はありそうです。



※講演の様子を右のQRコードを読み取って下さい。(1D・PWHはHで入れます。)

図Ⅳ-15 「教頭だより 2015年2月20日号」(作成:宮城卓司先生)

削除: V

書式変更: フォント: 8 pt

削除: の利用について

書式変更: フォント: 8 pt

削除: .

・

・

・

V. 教育リソースの利用について。  
～教育リソース(資源)の利用の発展～

・

・

書式変更: フォント: (英) BIZ UDPゴシック, (日) BIZ UDPゴシック

書式変更: フォント: (英) BIZ UDPゴシック, (日) BIZ UDPゴシック

書式変更: フォント: (英) BIZ UDPゴシック, (日) BIZ UDPゴシック

書式変更: フォント: (英) BIZ UDPゴシック, (日) BIZ UDPゴシック

書式変更: フォント: (英) BIZ UDPゴシック, (日) BIZ UDPゴシック

書式変更: フォント: (英) BIZ UDPゴシック, (日) BIZ UDPゴシック

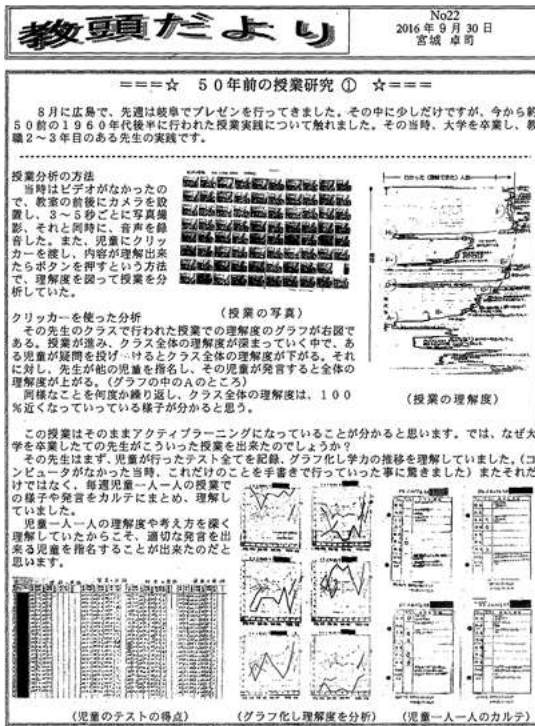
書式変更: フォント: (英) BIZ UDPゴシック, (日) BIZ UDPゴシック

書式変更: フォント: 8 pt

書式変更: 中央揃え

書式変更: フォント: 8 pt

#### IV. 教育リソースの教育実践研究での利用



削除: V

書式変更: フォント: 8 pt

削除: の利用について

書式変更: フォント: 8 pt

図IV-16 「教師だより 2016年9月30日号」(作成: 宮城卓司先生)

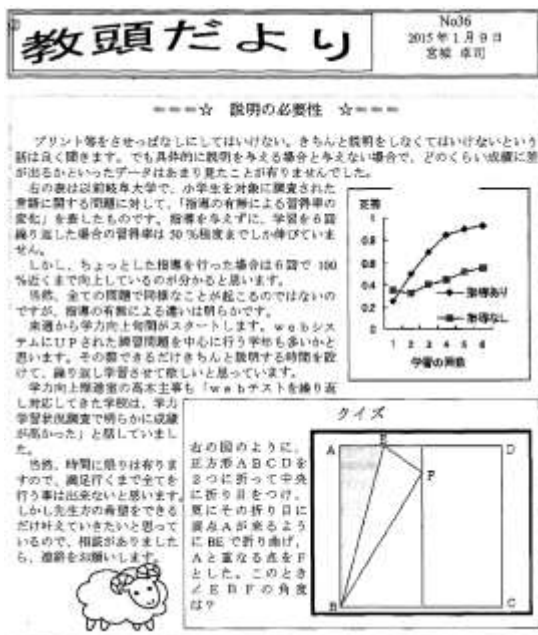
#### IV. 教育リソースの教育実践研究での利用

削除: V

書式変更: フォント: 8 pt

削除: の利用について

書式変更: フォント: 8 pt



図IV-17 「教頭だより2015年1月9日号」(作成:宮城卓司先生)

#### IV. 教育リソースの教育実践研究での利用

削除: V

書式変更: フォント: 8 pt

削除: の利用について

書式変更: フォント: 8 pt



図IV-18「教頭だより 2016年10月14日号」(作成:宮城卓司先生)

#### IV. 教育リソースの教育実践研究での利用

##### IV-3-5. シンポジウムより実践例の紹介(宮城卓司先生)

[B 小学校の実践] ……教育理論や過去の資料(教育リソース)を総合的に利用～学校文化・学力の向上～

##### B 小学校の教育実践

##### B-1. 実践研究をはじめる前の学校の状況

(1) B 小学校の状況～要保護・準保護家庭が約4.7%～



【宮 城】自分が赴任したのは某市の B 小学校でした。その小学校に赴任する前は、沖縄県立総合教育センターのIT教育班というところにいました。そこで一番の課題というか沖縄県全体の課題が学力向上でした。学力・学習状況調査で沖縄はずっ

とずっと最下位。しかもほとんどの教科、ほとんどのテストでずっと最下位を続けていて、全テスト総合ではかなりの県とかなり離れた状況で最下

| 学力・学習状況調査都道府県別順位 |     |     |     |     |    |
|------------------|-----|-----|-----|-----|----|
|                  | 国語A | 国語B | 算数A | 算数B | 総合 |
| 平成19年度           | 47  | 47  | 47  | 47  | 47 |
| 平成20年度           | 47  | 47  | 47  | 47  | 47 |
| 平成21年度           | 47  | 46  | 41  | 47  | 47 |
| 平成22年度           | 47  | 46  | 46  | 47  | 47 |
| 平成23年度           | 47  | 47  | 47  | 47  | 47 |
| 平成24年度           | 47  | 47  | 47  | 47  | 47 |
| 平成25年度           | 46  | 47  | 47  | 46  | 47 |
| 平成26年度           | 32  | 32  | 6   | 34  | 24 |

〇〇小学校  
都道府県別  
順位

|        | 国語A | 国語B | 算数A | 算数B | 総合 |
|--------|-----|-----|-----|-----|----|
| 平成26年度 | 48  | 43  | 20  | 48  | 48 |

学力・学習状況調査都道府県別順位(宮城先生)

削除: V

書式変更: フォント: 8 pt

削除: の利用について

書式変更: フォント: 8 pt

#### IV. 教育リソースの教育実践研究での利用

位だったので、これを上げていくということが県教育界全体の課題でした。

そこで、私は岐阜女子大学大学院に進学し、その次に赴任したB小学校に在籍中に大学院で学修した内容を職場で生かしていく活動を行っていました。

当時私が赴任した学校の状況ですが、赴任した平成26年度の4月に行った学力・学習状況調査でこの学校が48番目の都道府県だったら何位になるかという数字を出してみました。すると、国語Aが48位、国語Bが43位、算数Aが25位、算数Bが48位で、総合でも48位。つまり、一番最下位の沖縄県にも全然及ばないし、全然点数がとれていないという状況でした。

|    | 相対的貧困率 |      | 子どもの貧困率 |      | ワーキングプア率 |      |
|----|--------|------|---------|------|----------|------|
| 1位 | 沖縄     | 29.3 | 沖縄      | 30.7 | 沖縄       | 20.5 |
| 2位 | 鹿児島    | 24.3 | 大阪      | 21.8 | 大阪       | 14.2 |
| 3位 | 青森     | 24.1 | 鹿児島     | 20.6 | 京都       | 13.9 |
| 4位 | 高知     | 23.7 | 福岡      | 19.9 | 高知       | 13.0 |
| 5位 | 大阪     | 23.2 | 北海道     | 19.7 | 鹿児島      | 12.9 |
| 全国 | 全国平均   | 18.3 | 全国平均    | 13.8 | 全国平均     | 9.7  |

(2009年調査)

その学校がどういった学校だったかという点、沖縄県は、相対的貧困率が29.3%で全国平均より10ポイント以上高いんですね。子どもの貧困率が30.7%で3人に1人ぐらいが貧困というような状況で、ワーキングプア率も20%を超えているというような状況です。その沖縄県の中で一番要保護・準要保護の割合が高いのがこの市なんですね。その市の中でも一番高いのが、私が赴任した学校で、大体47%、半分は要保護・準要保護を受けていて、恐らく相対的貧困率で言うとも6割から7割ぐらいにはなるのではないかなというところなんです。

校区内には3カ所団地があって、子どもたちは、3分の1は団地、残り3分の1はアパート、残り3分の1が戸建ての家に住んでいるんですけど、その戸建ての家の多くが、お母さんが離婚して実家に戻ってきたという状況が多く、自分で家を買ってその地域に住んでいるというのはクラスに1人か2人いるかないか、という学校でした。

削除: V

書式変更: フォント: 8 pt

削除: の利用について

書式変更: フォント: 8 pt

#### IV. 教育リソースの教育実践研究での利用

そのため、様々な問題から多い週では週に3日から4日、児童相談所や警察が来て子どもたちについての会議を行っていました。

##### (2) B 小学校の児童の学習課題

～プリントをさせても、学力は向上しなかった～

【宮 城】私が赴任した当時の学校の学力の状況なんですが、子どもたちの家庭状況もかなり厳しく、保護者の中には精神的な課題を持った方も多ですし、知的な課題を持っている方も多く、母子家庭の割合もかなり高い。

家庭環境は、沖縄県の中でもトップクラスの厳しいところで、家庭には全く期待できない。“家庭に期待できないという前提で努力してきた学校”です。そのため基礎的な力をつけるために、毎日山のようなプリントをやっていました。

多くのプリントをこなしているおかげで、算数Aの問題は例年比較的良好な点がとれていました。全国平均近くとれていたのですが、そのかわりB問題は全然とれていない。年度によってはいい点数をとるときもあるのですが、課題としてはB問題だったというような状況です。

#### B-2. 先生方や保護者の状況

##### (1) 先生方や学校の状況と学習指導の取り組み

【宮 城】私が赴任した当時の学校の様子ですが、職員の机に毎日山のようにプリントが置かれるんですね。そのプリントを先生方は放課後5時とか、場合によっては6時ぐらいまで子どもを残して補習させていました。それを処理し切れないうちに、子どもたちは朝登校したらすぐに新しいプリントをこなし、放課後もやるというような状況でした。「子どもたちがわかるまで帰さない」という考え方でやっていたんですけど、実際先生方は毎日終わることができないプリントが机の上にどんどん置かれていく、それが処理し切れなくて教室にどんどんたまっていく。

職員からは、「それを見るだけでも正直ストレスです」というような意見が上がっていました。

ただ、それに対してほかのやり方が浮かばない。ほかにどうやって厳しい環境にある子ども達の状況を改善していくのかということが、具体的にはわかっていないというような状況でした。

削除: V

書式変更: フォント: 8 pt

削除: の利用について

書式変更: フォント: 8 pt

#### IV. 教育リソースの教育実践研究での利用

【宮 城】子どもたちの生活態度なのですが、かなり家庭的に厳しい子が多い割にはそんなに悪くなくて、私がいた3年間に万引きで指導した子というのはゼロだったんですね。ただ、そのかわり保護者がかなり厳しい家庭の子が多いので、何かあったら学校に来なくなる、不登校になる子はかなり多くなりました。

学習態度にしても、“とりあえずみんながやっているからやるんだけど”というような感じで、主体的ではないんですね。受け身な学習態度がかなり感じられました。

#### (2)保護者や児童の状況

【宮 城】まず、今回の実践を始めようと思ったのは、いわゆる知識・理解を問うような算数のA問題はいい点数をとれた年度が結構あったんですね。学校としては学力的にすごく低いのがずっとずっと続いているという学校ではなくて、かなり波があるというような学校でした。知識・理解についてはある程度詰め込みでやっていったのでとれていた。けれど、この子たちが中学校に行ったら、成績が市内でもほとんどずっと最下位。かなり厳しい地域なので、もう中学生になったら子どもたちのモチベーションが続かないんですね。だから、そこをどうしても変えていきたいと思い“子どもたちが主体的に学習していく方法”を探っていくことを始めました。

そして、保護者は、子どもたちの学習にまで気が回らないというか、いろいろ学校に要望を言ってくるような地域ではないんです。みんな自分のことで精いっぱいというような地域でした。児童についても、かなり詰め込みで学習しているので、モチベーションは低い。それを主体的に変えていくことが課題だと感じていました。

職員や周囲からの反対は特にありませんでした。でも、やっぱり今までのやり方を変えていくことに抵抗感がある先生方というのは結構いると思うんですよ。その抵抗感をなくすためにいろいろな手立てを打っていました。

### B-3.先生方への援助や手立て

学力向上は授業改善を中心に

#### ①まずは理論から

【宮 城】私は、教育センターのIT班から赴任したので、たいていの先生方は「おそらくパソコンおたくだろう」ぐらいにしか思っていなかったと思うんですよ。IT教育

削除: V

書式変更: フォント: 8 pt

削除: の利用について

書式変更: フォント: 8 pt



#### IV. 教育リソースの教育実践研究での利用

班だから学力向上については専門と思われていないだろうと感じました。それで“最初に始めたのが『教頭だより』”です。毎週『教頭だより』で学力向上を中心に学級経営などについて伝えていくようにしたんですね。

それを行っているうちに、校長先生から「校内研でプレゼンしないか」というような話があって、夏休みの校内研で2時間ほど時間をいただいてプレゼンをしました。

このときに授業の理論などを伝えていきました。そして、学校の学力向上の中心になる先生、特に算数加配の先生が私と一緒に赴任した職員だったので、その先生と一緒に、

「うちの学校はプリントをいっぱいやって知識・理解はできているんだけど、課題としてはモチベーションが足りない。さらにB問題が全然解けないことだね」という話をしていました。そして、学力向上を授業改善にふいていこうという事を放課後よく一緒に話していました。



校内研修会の様子(宮城先生)

#### ②理論を具体化し、適用する

まず、先生方に授業を変えていっていただくためには、その基礎となる理論をきちんと理解していただかないといけない。その理論を毎週『教頭だより』で伝えていきました。理論は伝えていったのですが、“先生方は理論がわかるだけでは、実際に授業を改善できるかといったなかなかできない”んですね。そのため、実際の授業でその理論をどう生かしていったらいいのかをわかってもらうために、『教頭だより』の中にQRコードを埋め込みました。QRコードをスマートフォンで読み込むこ

削除: V

書式変更: フォント: 8 pt

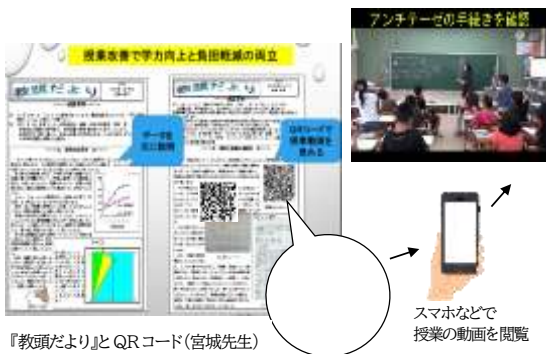
削除: の利用について

書式変更: フォント: 8 pt

#### IV. 教育リソースの教育実践研究での利用

とによって授業の動画をみられるようにして「こうした理論を生かすには、こういった授業ですよ」という内容を、動画で授業実践をみていただけるようにして配付しました。

このQRコードの使い方も後藤先生からお伺いした方法を活用し、実践しました。また、QRコードでみられる短い動画だけではなく、実際にその授業全体の流れをみられるように学校のサーバーに授業動画のファイルを入れました。教育センターに勤めていた時から将来的にはデジタルアーカイブの中に入れていくことができるようにという思いを持って撮りためていた動画が100時間以上あり、その動画を全職員がみられるようにしました。



放課後よく先生方と一緒にこの動画をみながら授業改善の方法を「この発問についてはどう」とか「この問題の提示の仕方についてはどう」というようなことを具体的に記録していきました。

また、職員が次の授業で行う授業と同じ単元をやっている授業の動画をみて、授業改善の方法を探ることをしていきました。

さらに理論を理解してもらうために、さまざまな講演会などの動画もみられるようにしました。

先生方は「理論がわかった」次に「実際授業でどういったふうに行っていたらいい

削除: V

書式変更: フォント: 8 pt

削除: の利用について

書式変更: フォント: 8 pt

#### IV. 教育リソースの教育実践研究での利用

いのかが授業の動画をみてわかる。でも、実際に自分の授業でそれができるといったらなかなかできないんですね。だから、“実際に先生方の授業の参観”をして、最低でも年50時間以上、多い年は100時間以上、1時間張りついて授業を参観して、改善策を伝えるというような活動をやっていました。

A4の裏紙に改善策を書いて、給食準備時間とか放課後のときなどの、ちょっとした空き時間にフィードバックするというようなことをやっていて、ふだんの授業を改善していく活動に取り組んでいきました。



年 50 時間から 100 時間の授業を参観して、改善点などを授業者にフィードバック

指導助言メモの一部(宮城)

#### B-4.まず先生が変わった

##### データで語ることの大切さ(宮城先生)

【宮 城】先ほど、先生方の授業を 100 時間以上見たというような話をしたんですけども、先生方のほうから「できるだけ授業を見に来てください」と言ってくれることが増えていったんですね。多い日は1日4時間、1時間目から4時間目までずうっと授業を見て午後にフィードバックを行うということをやっていました。授業を見てくださってと言ってもらえるために一番気をつけたのが、実際にデータで語るということです。

##### ①発問についての指導

例えば、これは先生方の発問の意図を子どもたちが理解するまでどのぐらいの時間がかかるのかというデータです。よく「沖縄県の先生方はしゃべり過ぎて、子ども

削除: V

書式変更: フォント : 8 pt

削除: の利用について

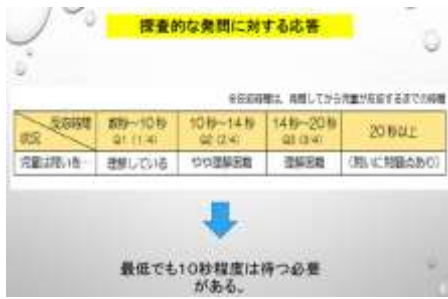
書式変更: フォント : 8 pt

IV. 教育リソースの教育実践研究での利用

「発問後、子どもたちの考える時間はクラスの4分の3が理解できるようになるには、最初にわかった子の大体3.7倍ぐらいの時間を与えたら内容を理解できるよ」というように、具体的なデータを使って説明するようにしました。



アナライザーによる分析(宮城先生)



探査的な発問に対する応答(宮城先生)

削除: V

書式変更: フォント: 8 pt

削除: の利用について

書式変更: フォント: 8 pt

表の書式変更

#### IV. 教育リソースの教育実践研究での利用

探索的な発問、つまり思考を要する発問をしたときに、子どもたちにどのぐらい時間を与えたら課題の意味を理解できているのか。10 秒以内に反応する子は、ほとんどきちんと理解できているけれど、14 秒ぐらいだったらちょっと難しくなってくる。20 秒以上たったらもう先生の発問の仕方自体が悪いんだから、発問の仕方を変える必要があるといったことをデータで見てもらいながら話すようにしていました。

#### ②グループ討論と全体討論についての指導

これは今、日本中の学校が取り組んでいるグループ討論と全体討論についてのデータですが、実はグループ討論と全体討論の理解率というのはそんなに変わらないんですね。

変わらないんだけど、所要時間はグループ討論よりやっぱり先生が中心になって行う全体討論のほうが時間が短い。

| グループ討論と全体討論について |     |     |     |
|-----------------|-----|-----|-----|
| 課題解決状況          |     |     |     |
|                 | Q1  | Q2  | Q3  |
| グループ討論          | 50% | 69% | 87% |
| 全体討論            | 53% | 73% | 87% |
| 所要時間            |     |     |     |
|                 | Q1  | Q2  | Q3  |
| グループ討論          | 22分 | 30分 | 40分 |
| 全体討論            | 12分 | 18分 | 24分 |

グループ討論と全体討論について(宮城先生)

じゃあ、全体討論のほうが理解の上では有効なのかというと、実はそれだけではなくて、“子どもたちは自分が思ったこと、頭の中にある考えていること、内言を外言化することによって思考が整理されたり定着されたりする”。

そういった意味でもやっぱりグループ討論でいっぱい外言化する必要がある。こうしたことをできるだけデータを使って説明する。先生方の腑に落ちるように伝えるということに気をつけていきました。こうしたことを行っていく結果、先生方から授業を見に来てくださいと言ってもらえることが増えたんですね。

削除: V

書式変更: フォント: 8 pt

削除: の利用について

書式変更: フォント: 8 pt

#### IV. 教育リソースの教育実践研究での利用

##### ③お互いに授業を見せ合うように

年度の後半になるんですけれども、ちょっと気になるクラスがあって、そこに私がかかり関わる必要ができました。そのため、授業についての話し合いに参加できなくなっても先生方だけでこうした話し合いを繰り、お互いの授業を見合ったり、主体的に協力し合って動くようになっていきました。

##### ④先生方が腑に落ちることの大事さ

【宮 城】腑に落ちてもらうように伝えないと、次「授業を観てください」と言ってもらえないんですね。そのため、ここを一生懸命考えたというか、気をつけたところではあります。

これは、先生方の授業を観せてもらった後で、岐阜女子大学がつくった資料をもとに、

「子どもたちが発問を理解するにはこういった手順を追っていくから、やっぱりある程度の時間は必要だよ」というような、データを見てもらいながら説明するといったことをやりました。

つまり、“待つということをどうするか”。発問しても待たずに先生が話したら、子どもが論理的思考はできません。その辺のところがやっぱり大事なところでしょうね。グループ討論もそうですし、先生と子どものコミュニケーションもそうですし、そこを全部資料をもって説明してきました。

先生方の行動、今までの考え方と授業方法を変えていただくためには、それをしていかないとけないと感じています。すぐには先生方もこれまでのやり方を変えてくれないと思うので、授業を観て一緒に改善方法を考えていくという活動を繰り返し繰り返し行い、伸びていったと思います。

#### B-5. 具体的な進め方

##### 子どもたちの顔が変わってきた(宮城先生)

##### ①3年間継続して指導

【宮 城】先ほど話したように、まずは『教頭だより』で理論を伝えていって、授業動画を実際に見ていただいて、具体的な授業のやり方を理解してもらう。そして、その

削除: V

書式変更: フォント: 8 pt

削除: の利用について

書式変更: フォント: 8 pt

#### IV. 教育リソースの教育実践研究での利用

後、実際に先生方の授業を見て一緒に改善していくようなことをやって、それを繰り返しやっていきました。それをずっと3年間続けていたということになります。

##### ②気になる児童への対応

保護者の中にも様々な課題を持っている方が多い地域の子どもですので、様々な課題を持っている子もかなり多いんですね。そういった子に対しては、いろんな機関と連携しながら知能検査などを行っていきながら、本人の得意分野、苦手分野とかを探っていくことを行いながら、実際授業を見て、「この子にはこういった対応をしていこう」などと、相談をしていきました。

##### ③常に職員と一緒に考える

先生方に信頼してもらえるようになるためにも、こういった子に対する対応を常に一緒に考えていたのが、自分が行った学力向上の面と、あと一つの大きな柱だっと思っています。常に職員と一緒に考える。管理職なので担任に任せるとかいうことではなくて、そういった子のお母さんには「検査を受けたら」というような話で、「けっこう担任は言いにくいんですね」。保護者との関係が悪くなった場合に、担任が「あの先生にこんなことを言われた」ということになり、信頼をなくしてしまったり困る。しかし、自分は教頭なので私のほうから常に言うようにしていました。「お母さん、お子さんには、こういった行動があるのですが、こんな対応方法があるよ」というような事を伝えていました。その方が、保護者がそっぽを向いても担任との関係は悪くならないのいいと思い、授業参観のときに、「お母さんちょっと来て」とかいう感じで話していました。授業参観の間中、ずっとずっと回って、1人ずつ対応していく。こうこうといった対応をすると、こうなるはずみたいな話をずっとしていきました。

成果が見え出したのは、やっぱり授業参観をやり出して先生方の授業が変わってきて、2学期、年末あたりです。先生方の授業が変わってきたし、子どもたちの顔が変わってきたなあというようなふうに感じました。

削除: V

書式変更: フォント : 8 pt

削除: の利用について

書式変更: フォント : 8 pt

#### IV. 教育リソースの教育実践研究での利用

### B-6. 苦勞したこと、成果

この子たちから学校を変えていける(宮城先生)

#### ①学力向上の成果

【宮 城】 まず、赴任して1年間学力向上の取り組みと授業改善の力を入れていった結果、全国学力学習状況調査で国語Aは全国平均よりちょっとだけ上なだけだったんですけど、国語Bが都道府県別でいうと4位、算数Aが3位、算数Bが4位、理科が1位。総合では都道府県別で秋田県までは及ばなかったんですが、4位ということです。全ての教科でこのように成績が上がっていきました。

## 授業改善の結果

(学力・学習状況調査都道府県別順位)

|        | 国語A | 国語B | 算数A | 算数B | 総合 |
|--------|-----|-----|-----|-----|----|
| 平成19年度 | 47  | 47  | 47  | 47  | 47 |
| 平成20年度 | 47  | 47  | 47  | 47  | 47 |
| 平成21年度 | 47  | 46  | 41  | 47  | 47 |
| 平成22年度 | 47  | 46  | 46  | 47  | 47 |
| 平成24年度 | 47  | 47  | 47  | 47  | 47 |
| 平成25年度 | 46  | 47  | 47  | 46  | 47 |
| 平成26年度 | 32  | 32  | 6   | 34  | 24 |
| 平成27年度 | 32  | 13  | 6   | 26  | 20 |

〇〇小学校  
都道府県別  
順位

| 〇〇小学校  | 国語A | 国語B | 算数A | 算数B | 理科 | 総合 |
|--------|-----|-----|-----|-----|----|----|
| 平成26年度 | 46  | 43  | 25  | 48  |    | 46 |
| 平成27年度 | 22  | 4   | 3   | 4   | 1  | 4  |

全国学力・学習状況調査にみる授業改善の結果(宮城先生)

これが翌年の4月に行った学力学習状況調査の結果ですが、沖縄県は毎年2月に県の「到達度調査」というテストをやります。中学年以上全学年やるんですけど、この都道府県別で4位をとった子たちというのは、このとき市全部 16 校の中では2位だったんですよ。1位だった学校は、大体秋田と同じぐらいの成績だったんですね。ただ、それが2月のテストではその学校を軽く上回っていました。だから、多分卒業

削除: V

書式変更: フォント: 8 pt

削除: の利用について

書式変更: フォント: 8 pt



#### IV. 教育リソースの教育実践研究での利用

時には秋田平均は軽く上回ったんじゃないかなと思っています。それ以降も、県の到達度調査ではずうっと市内 16 校中1位を続けて、最後の年は転勤だったので正確には分らないのですが、平均点よりかなり上でした。ずっとトップで中学校に上げられたという結果になっています。

| 沖縄県到達度調査(毎年2月実施) |        |        |
|------------------|--------|--------|
| 平成28年            | 市内16校中 | 1位     |
| 平成29年            | 市内16校中 | 1位     |
| 平成30年            | 市内16校中 | おそらく1位 |
| (県平均より7ポイント高い)   |        |        |

沖縄県到達度調査(宮城先生)

#### ②一番喜んだのは地域の方々

【宮 城】保護者は、やっぱり学力が上がっていることについては、興味を持っていたか、教育熱心な保護者はかなり喜んでいただきました。

しかし、一番喜んでくれたのが地域の方々なんです。この地域がこんなに厳しいところだとわかっているからこそ、お父さん、お母さん方ができないから、自分たち地域で頑張るというふうに学校に協力してくれる方がかなりいっぱいいらっしゃいました。その方たちが一番喜んでくれたと思っています。

#### ③子どもたち同士をつなげる

中学校進学を意識した時、とても気をつけ、先生方に伝えていたのは、「子どもたち同士を結びつけてください」ということ。  
「子どもたちに課題を与えて、その課題をわからない子にわかる子が教える。そして一緒に問題を解く喜びを味わわせてください」という話をよくしていました。

削除: V

書式変更: フォント: 8 pt

削除: の利用について

書式変更: フォント: 8 pt

#### IV. 教育リソースの教育実践研究での利用

「この子たちは、そのまま一人一人バラバラだと中学に行って、家庭環境も悪いから絶対ひねくれるよ。勉強なんか絶対しない。だから、子どもたち同士をつないで、みんなと一緒に努力するというような子どもたちにしてください」という話をずうっと言い続けて、実際にこの子たちが中学校に上がったときに、毎年学力が市内で最下位だった中学校だったんですけど、市内のトップのほうにぐんと上がりました。子どもたちはみんなとても前向きで、協力的で、そういった子たちでした。そのため中学校の先生方は、「この子たちから学校を変えていけると思います。ありがとうございます」と言ってもらえたんですね。

授業の中で子どもたちをつなげていって、課題を解決する喜びを味わわせる。そういった授業をやってくださいという活動を続けていった。それが中学校に上がったときに中学校の先生方からこうした意見をもらったのが、一番うれしかったことですね。

そして、保護者も喜んでいただきましたし、子どもたちもとても自信を持って中学校へ上がっていった前向きになったし、やはり地域の方がすごい喜んでくれたというのが大きいですね。

#### ④先生方の精神的な負担が減った

学校には学習支援員がいます。学習支援員は春休みに補習させてくださいという決まりだったんですけど、「うちの学校は補習させません、次年度のために準備します」ということを言っても、教育委員会は「成果が上がっているからいいよ」と認めてくれました。やっぱり成果が上がっていったら、いろんな面が自由になってきます。

そして先生方の勤務面でもかなりよくなってきたというのと、あと授業改善についてみんなで話し合うようになってきていましたので、先生方が、「勤務時間はちょっと減った、でもそれ以上に一番よかったのは、職員みんながつながってきたのが精神的な負担が減った」というような話をよくしていましたね。

その時の職員とは今でも時々会うんですけども、先生方は「みんなで同じこと、学力向上について話をできるのってとてもいいよね」とか「雰囲気よかったよね」とかよく言ってくれますね。

削除: V

書式変更: フォント: 8 pt

削除: の利用について

書式変更: フォント: 8 pt

#### IV. 教育リソースの教育実践研究での利用

### B-7.測りにくい学力の向上

#### ①前向きに勉強できる環境を整える



授業の様子(宮城先生)

【宮 城】知識はやっぱりとても大切だと思っています。私がいた学校は、その辺についてはかなり力を入れてやってきた学校で、それプラス、次にこの子どもたちに何か必要なのかというような

ことを考えたときに、活用力だということで、授業改善を行っていきました。その中で、子どもたちの生活態度もかなり変わってきました。子どもたちが、学習自体をすごく楽しんでいる様子がこの動画でわかるんじゃないかなと思います。

わかる子は、クラスの中のわからない子に、どうやったらわかるようになるかを説明しています。

“わかることが楽しい”というような感じが伝わっていただけたかなと思います。こうした感じで、とても前向きに勉強していつているので、中学校に上がったときに、中学校の先生が、「この子たちから学校を変えていきます」というようなことを話されてくれたのかなあと思っています。

井口先生のところでもそうなんですけれども、不登校の子がゼロになったということは、実は私がいた学校でも起こっていて、子どもたち、特に不登校になる子は発達の課題を持っていたり、家庭的な環境の課題がとても大きいんですけれども、そういった子が、いざ教室に入るとなったときに、教室が荒れていると絶対に入っていけないんですね。聴覚的に敏感な子とかだったら、もう絶対無理。でも、子どもたち同士がすごく前向きだと教室に入っていけるんですね。

削除: V

書式変更: フォント: 8 pt

削除: の利用について

書式変更: フォント: 8 pt

#### IV. 教育リソースの教育実践研究での利用

不登校はとても多かったんですけども、“一旦全部ゼロにしました”。全員学校に来るようにして。ただ、私が異動になる前に、ちょっと家庭環境が厳しい子2人がまた不登校ぎみになって、最終的にはこの子たちが解決できなくて異動したんですけども。

その後赴任してきた先生は、この学校はこんなに厳しい学校だということはあまり気づかないようで、「今、学校がとても落ちついていますよ」というような話をいろいろなところで聞きます。

だから、“子どもたちが前向きに勉強する環境を整えること”が、やっぱり子どもたちの生活態度もよくなるし、少なくとも、家でつらくても学校に行ったら友達がいるよとか、友達と一緒に楽しいよというようなことを思ってもらえたのではないかなと思っています。

#### ② 確かな指導法の確立と学び力の育成

“先生方の指導法がはっきりしてきて、こうやれば、子どもが授業に乗ってくる”ということがわかったということ、もう一つは、子どもたちに“学ぶ方法が身についた”ということ。単なる知識・理解の他に、学び方も身についたということね。これが僕は大きな要因じゃないかなと思っています。それにはどうしたらいいかという具体的な方法を提供したのが岐阜女子大学のデータなんですね。

子どもたち同士で学んでいけるようにする。子どもたちが学び方をわかっていると、先生が何か刺激を与えると、いい反応が来る。それにより先生自身が授業を楽しむという、いいサイクルが起きているのが、授業の様子を見ていただけたらわかると思います。

#### ③ 学校を変えていかないといけない

【宮 城】まず中心となる知識を与える方法というのは、今まで先生方ずっとやってきて、それについての支援がしっかりしていました。でもそれだけじゃないよねということを実際には先生方が思っていて、課題意識を持っている先生が何名かいるところに私が赴任してきた。さらに一緒に赴任してきた先生が、学校の中心となる研究主任でした。この研究主任の先生が、一緒に授業改善をやっていきました。この先生と、算数専科の先生がひとりで、この人たちを中心に授業改善を行い、「この学

削除: V

書式変更: フォント: 8 pt

削除: の利用について

書式変更: フォント: 8 pt

#### IV. 教育リソースの教育実践研究での利用

校をやっぱ変えていかないと、先生も子どもたちも本当に成果が上がる方法に変えていかないと、中学に行ったら全部崩れるね」と話していました。“授業改善による学力向上という方向性が統一できた”のが一番よかったのではないかと考えています。

当然、どの学校でも恐らくそうだと思うんですけども、今までのやり方を変えたくない先生っていっぱいいますよね。うちの学校はこういった特徴だから、こんなことをやっているんだよ。でも、そうではなくて、その中にある課題を解決してこういうようなことで方向性を統一できた。だから、研究主任や算数専科の先生は、よく頑張って仕事をしてくれました。ほかの人の気持ちを变えていかないとイケないということは嫌な目にも遭うし、つらい思いもしますが、歯を食いしばって頑張ってくれました。残りのあと1人、算数専科の先生も、自分達が赴任する前からいたんですけど、“学校を変えていかないとイケないという強い思い”を持っていたのが、成果を出せた要因なのかなと思います。

あと、“職員同士が比較的仲がよかった”ということもあるのかなと思っています。

職員同士ばらばらだったら、ほかの人がどんなに頑張っているかわからないと思います。「そっちだけやっておけばいい」みたいな感じになるんですけど、そんな雰囲気はなかったの、みんな何となく「今までのやり方はとてもきつ過ぎる、しかも小学校のときはいいけど、中学校に行っ

たら成果が上がらない、どうしよう」というような思いを持っているときに、私が具体的な大学院で学んだデータを持って入っていったということが大きかったと思っています。



活用した具体的データ(宮城先生)

削除: V

書式変更: フォント: 8 pt

削除: の利用について

書式変更: フォント: 8 pt

#### IV. 教育リソースの教育実践研究での利用

削除: V

書式変更: フォント: 8 pt

削除: の利用について

書式変更: フォント: 8 pt

### B-8. B 小学校の成果(まとめ)

#### (1) 今回の実践前の状況

##### ① 学力について

平成 26 年度の学力・学習状況調査で、総合すると全国最下位の沖縄県の平均点よりさらに下であった。

##### ② 学力向上に向けた取り組みの状況

基礎的な力をつけるということで、毎日山のようなプリントをやっていたが、終わらせることができない山のようなプリントで先生方もストレスに感じていた。

#### (2) 実践のポイント

① まずは授業改善との思いで、先生方にその基礎となる理論をきちんと理解してもらうために、毎週『教頭だより』で理論を伝えていった。

② 実際の授業でその理論をどのように生かしていったらいいかをわかってもらうために、『教頭だより』の中に QR コードを埋め込んで関連する授業や講演会の動画をみられるようにした。

③ 先生方の授業を最低でも年 50 時間以上、多いときは 100 時間以上、1 時間よりついて観て、改善策を伝えた。

#### ◆ 自分自身が「授業を観て欲しい」と思われるようになること

(ポイント) クラスの課題と一緒に考える

・発達の課題、不登校、生徒指導など

#### ◆ 指導助言の 1 回 1 回が勝負

(ポイント) 納得できる具体的な改善方法を伝える

・データで根拠を伝えるなど

#### IV. 教育リソースの教育実践研究での利用

授業改善をする上で気を付けたこと(宮城先生)

##### (3)実践の成果

①全国学力・学習状況調査において、国語Aは全国平均より少し上、都道府県別でいうと国語Bが4位、算数Aが3位、算数Bが4位、理科が1位、総合では都道府県別で4位になった。

②沖縄県の「到達度調査」で、平成 28 年度、29 年度に同市内の小学校 16 校中1位になった。

③授業改善についてみんなで話し合うようになったことで、先生方の精神的な負担が減った。

④経済的に厳しい地域が、学校に協力的になった。

⑤進学先の中学校の先生から「この子たちから学校を変えていけると思います、ありがとうございます」と言われた。

このように、沖縄で最も貧困率が高い地域の学校が、2013 年当時、確かな学習指導と学校・教師の努力で全国学力・学習状況調査の調査問題において全国最下位の沖縄県の平均点より下位の学校が全国的にも上位へ向上しました。

(宮城卓司)

##### ▲[メモ]

沖縄の B 小学校の教育実践は、教頭が主となり、研究主任、教務主任等が支援して、実践研究を推進し、校長は教育実践研究の方向性を見定、支援し、学校文化を形成した例である。

また、この教育実践を支える過去の資料(教育リソース)を新しい教育理論を取り入れ、各先生方が腑に落ちる資料提供がいかに重要かを示している。(尚、ここで用いた教育実践研究資料(教育リソース)は、岐阜県、愛

削除: V

書式変更: フォント: 8 pt

削除: の利用について

書式変更: フォント: 8 pt

書式変更: フォント: (英) BIZ UDP明朝 Medium

#### IV. 教育リソースの教育実践研究での利用

知県の小、中、高等学校の学習システム研究会の先生方の協力で、1967 年～1980 年に収集・整理した資料である。)

削除: V

書式変更: フォント: 8 pt

削除: の利用について

書式変更: フォント: 8 pt



## IX. 教育リソース・デジタルアーカイブとメタデータ

〔宮城先生の実践より〕

手引き・資料の活用として、宮城先生は次のように注意されていた。

### ①手引き・資料を理解する

▲ 手引き・資料の提供を受け、指導方法等を理解しても、実践できるとはかぎらない。

## ②具体化……授業を見る

手引き・資料の具体化が必要である。

その方法としては、研究授業等を見て実践力をつけるのもよい。しかしいつも可能とは限らない。そこで、教頭先生、研究主任の先生で良い授業例をベテランの先生にお願いし、学習者の個人情報に注意し、実践例を撮影し、デジタルアーカイブとして保管する。これを手引き、解説書等に二次元バーコードを用いて実践例を見る。

### ③実践（先生方の実践）

具体的事例を参考に、実践をする。

実践にあたって、可能であれば教頭先生、研究主任等の先生にお願いしてみてもらい、指導を受けるのが良い。

◎「理解⇒具体化⇒実践」が重要である。

[illegible]